

【中学1年】子供の荒れた言動の理由

あるお母さんから、こんな相談を受けました。

「家にいるときの子供の言葉や態度、行動がひどいのです。家の外でもこんな風では社会に受け入れられず大変なことになってしまうのではないかと心配しています。この“荒れた言動”が、子どもの日常生活になっているのか？を知りたいです。」

このお母さんに対して、私たちはこのように話しました。

お子さんの、その荒れた言動が親に向かっていただけなら、親に何かを訴えたいと考えたら如何でしょうか？そこまで強く表現しないと、子供の言いたいことが分からない親になっている可能性は高いですよ。訴えたいことを聞いてもらえない、一人前に扱ってもらえないという危機意識から、親にだけ荒れた言葉を使うのではないのでしょうか？

親が過干渉なのだろうか？子供扱いをし過ぎているのか？と考えてしまいますよね。病気がちだったお子さんの世話(薬・清潔・生活リズムなど)は、そう簡単に本人に全てを任せるわけにはいかないと思いますが、まずは、本人と相談して、どこまで任せて良いか？を親子で決めていけたらよいですね。

いつまでも親が管理することを許す子供は、自己主張ができなくなってしまいます。子供の自己主張が弱いから、親が管理せざるを得なくなってしまったとも言えます。

お子さんは、中学生になって周囲を見渡したら、同級生が大人に見えるのだと思います。お子さん本人が危機意識を表現している今のうちに、親子間の距離やスタンスの調整を始めましょう。まずは率直に「荒れた言葉」の裏にある、お子さんなりの理由を尋ねてみてください。久しぶりに二人きりで外出したときや、二人でのんびりできているときなど、尋ねやすいチャンスを見つけてみましょう。彼なりのわけが聞けたら、親のできること・できないことを伝え、折り合い点を見つけれられるとよいですね。このプロセスもコミュニケーションなのですよ！

執筆：認定特定非営利活動法人育て上げネット 「結」相談員 森 裕子・墓田 薫

「ニート・ひきこもりの子をもつ親の会『結』」
(運営：認定特定非営利活動法人育て上げネット)

若者の「働く」と「働き続ける」を実現するために、若年無業者就労基礎訓練プログラム「ジョブトレ」など、多方面からの支援を行っている「認定特定非営利活動法人育て上げネット」の活動の一つで、親をサポートするための会。1か月ごとの定期相談やすぐに実施できる「接し方・伝え方」ワークショップ、親同士の気軽な茶話会などを提供している。

